

ちば さおり
千葉 早織経済学部 准教授
博士(経済学)／ボストン大学ホームページ URL
<https://sites.google.com/a/bu.edu/saori-chiba/>

主な研究業績

- Vagueness of Language: Indeterminacy under Two-Dimensional State-Uncertainty, *The BE Journal of Theoretical Economics*, 20 (1), 2020, Article number 20180093
- Behavioral Economics of Crime Rates and Punishment Levels (with K. Leong), *Journal of Institutional and Theoretical Economics*, 172 (4), 2016, 727-754
- An Example of Conflicts of Interest as Pandering Disincentives (with K. Leong), *Economics Letters*, 131 (C), 2015, 20-23

研究テーマ Research theme

組織における戦略的な情報集約・伝達と最適な意思決定メカニズムの探究

概要 Overview

企業などの組織が成果をあげるためには、組織内に散在する様々な情報をより正確に集約し、その上で意思決定を行うことが望ましいです。しかしながら、情報を保有する関係者達は、自己利益を追究するために意思決定者に伝達する情報を歪曲することがあります。結果として、意思決定者が受け取る情報の精度が落ち、組織の利益を最大化するような最適な意思決定が妨げられるといった問題が生じます。このとき意思決定者は、より正確な情報を引き出すべく、どのように組織を構成したら良いのでしょうか？

本研究では、ミクロ経済学ゲーム理論や情報の経済学に基づいて、数式モデルを用いて、情報伝達における送り手達や意思決定者の行動を分析します。そして、諸条件の元で正確な情報を集約するためにより適した組織構造の解明を試みます。更に、組織の多様性を組織内の情報伝達に着目して理論的に説明し、既存の実証研究と比較することで、この研究アプローチの妥当性について検証を行います。

加えて、上記の研究成果を国際政治の分析に応用することにも取り組みます。国際政治において、非対称情報の存在が、国家に“はったり”を言う動機を与え交渉の失敗を引き起こすため、国家間の紛争が発生する一因となると考えられています。諸国家は、国際組織(制度)を設立し、国家間のコミュニケーションを公に行う外交を通して、情報の共有を可能にし、交渉が失敗に終わるのを防いできました。しかし、実際には非公式な場でのコミュニケーションの疎通を図る秘密外交も依然として存在しており、その役割や効果に関する研究が必要とされています。そこで、本研究は、秘密外交が国際交渉に与える影響にも対象を広げ、更に、国際組織の有無によって国際交渉の帰結がどのように変化するのかについて分析を行います。

応用分野 Application areas

本研究の成果は、上記の概要に記載の通り、組織マネジメント、或いは、国家間の交渉といった対象の分析や改善に応用することが可能だと思えます。

共同研究等へのニーズ Need for joint research

概要に記載の研究については、他大学の国際政治学者や情報や組織の経済学の専門家との共同研究を始めています。

加えて、本研究は数式モデルを用いた分析を主体としますので、研究アプローチやその結果の妥当性を検証するため、実際の企業組織や国際政治のデータを扱っている研究者、或いは、コンサルティング会社やシンクタンクとの共同研究の可能性が有ります。